

## 2月いっぱい入院調整にご協力下さい

### 全病棟回復期リハビリテーション病棟へ 3A病棟改修工事に取り組んでいます

既報の通り当院はこの3月より4病棟180床の全てを回復期リハビリテーション病棟として運用を開始します。約10年をかけて、介護療養から医療療養へ、そして回復期リハビリテーションへと取り組みできました医療機能の転換が完了します。

当院35年の歴史を振り返りますと、医療環境の変化に対応しつつ、一般病院から介護保険法の施行に伴う介護・医療療養機能を提供する病院へ、そして10年前、回復期リハビリテーション病棟を導入し（60床）、試行錯誤しつつも、国が進める医療機能の分化と連携の流れの中で、地域医療におけるミッションの自覚とポジションの確立、病院の質、医療の質の向上を病院の基本方針に据えて、時代と地域が求める病院づくりをすすめてきました。

このような中発生した2011年東日本大震災への医療救護班の職員派遣は、病院に課せられる社会的使命と、地域への貢献への新たな決意を生み出す機会となり、その後の病院づくりに大きな影響を及ぼしました。

2012年に入ると病床の再編成を開始し、これを機に中期計画の下、回復期リハビリテーションを核とする病院づくりへとシフトし、2014年、医療・介護総合確保法の施行に伴い医療機関の機能分化・連携によりいっそうの拍車がかかる中、国の補助を受けながら病棟の増改築工事を行い、回復期リハビリテーション病棟を拡大（80床）、療養病棟を縮小することとなります。この年に始まった病床機能の報告制度に



おいては、2025年に向け、当院は回復期の医療を担う病院としての方向性を明確に打ち出しました。

2015年3月には電子カルテシステムを導入し、医療情報のICT化・地域における医療情報連携への備えを行い、びわこメディカルネットにも参加させていただきました。またこの時期、前年秋から始まった国の補助を受けての全館スプリンクラー設置工事が完了しました。

2016年3月、当院は地域医療構想の中での慢性期から回復期への医療機能転換として、4A病棟療養50床を回復期リハビリテーション病棟に転換しました。この時にも連携する慢性期病院には転院受け入れに大きなご協力をいただきました。また回復期病棟への転換のための病棟改修を行い、紹介をいただく急性期病院、そして患者の方々にも大変ご迷惑をおかけしました。このような経過をもって、回復期リハビリテーション病棟は130床まで拡大しました。また、この年の11月には日本リハビリテーション医学会研修施設に認定されました。

2017年3月には日本医療機能評価機構による回復期リハビリテーション病棟機能評価を受け、認定病院となりました。



そして現在、昨年秋から準備を始め、この3月には全病棟回復期リハビリテーション病棟へ転換を図るべく3A病棟の改修工事を行っています。改修の主な内容は、病棟手すり・洗面台の高さの変更・交換、個室の増設、浴室の増設、壁面・床面の全面リフォーム等を行い、機能的にも、療養環境的にもより快適な入院生活を送っていただくこととするものとなっています。またこの工事に合わせ、ランドリーコーナーを新設します。

今回の工事はお正月明けから2月末までを期間とし、その間の当該病棟の稼働病床は18床と制限されます。現在、ご紹介いただいてから入院受け入れをさせていただく待機期間が少し長くなっている状況にあります。3月の全病床稼働まで今しばらくの間、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。